

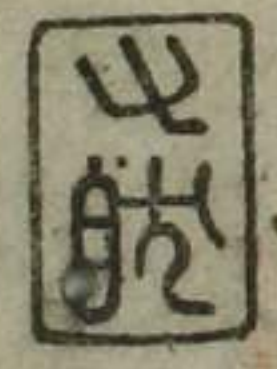


へ13  
2947  
16



素白の序  
 一日書肆号唐丸来  
 て曰例能小冊のあ  
 らあやあや

乃世  
 乃世  
 乃世





松こま 松こま

平よ 卷まきて 日ひの 中なかの ごと 安やす法ほう 法ほう  
ねん 念ねん する 様よう と 安やす法ほう 合あみ  
しん けしん げげ びび じじ と 執しつ 筆ふで と  
せふ 所ところ が 無な 事こと 然しか ら 銭ぜに 重おも くと

よよ 思おも 案あん 也なり 蓋けし 妄まが 作さ 乃なり  
ちや 茶ちや 表ひょう 紙し も 年ねん の 筆ふで と  
あか 穴あな 相あ 似い へ 歳とし と 通と へ  
あ 趣あそ 向むか 新あたら し 加か ざ れ ば 一ひと つ  
ひね ぐ 月つき と 松こま する こと 有あ る 様よう の



ひるのせをきり。求の景をみ  
 りて。美とて。小冊。此奴を一つ  
 新織あり。其備錦  
 乃裏と題。而已

日ひ 観琉球人入江戸

山東

菊 京傳撰





亭午之圖



倡門至日





附言

宗玉そうぎよ、好色こうしき、賦ふと作つくりて、一かた、  
 戒かい紫むらさき氏うぢハ五十四帖ごじゅうしちてい、  
 之これ欲ほむ戒かい、是こゝ皆みな佛ぶつの譬たとへ論ろん、  
 文ぶんと書かきあはせり、子屢しばしば妄まが乃すなは若ごと、  
 述しゆとたり、淫滄らんと仲、似、  
と必かならず戒かいと守、喜怒ど哀あは樂らく、  
の人ひと、情と述く、勸善ぜん懲ちやう惡ご乃すなは



微意あり通く誦むるは幼童と雖  
戒るも錫もいへば矢もひくもさるる  
則ち紹興の徳を伝はるる  
芥ハ仁義五常たり徳は小冊  
と教訓の二字と冠し舟もさるる  
所以ありていふもあつて心は  
視人宜家也

青樓畫之世界錦之裏

山東京傳戲作

五両文鳥

ガア

辰鐘

ボラウシ

紙砧の音

高人の聲油わげ

夫神靈矢口渡道行の文句曰たふふこと

疾のゆゑふまはせしむるもさるる

乃常時瓜よくいひるる一妙なり

珠匣硝子の梳皿とわらわ秘と明布と



きこふぬぐのす情あを昔く詩所連誅  
津福瑞小唄法依説法夜講釈門施餓  
鬼をたのむを慮松へ寄てお死老仁日蓮  
記でもあれは探芝居と刀を半なきは  
いふゆで唐の和名ふ万人口のまくら後  
いひはくしく今ありいふも愚癡な終ど死  
槍家と娼家と六等といふその世も中よ  
絶てーなくもまじよのなを

爰昔後一条御宇撰州河邊郡神崎  
之廓吉田屋喜左衛門云有妓家

そ被が二階乃初京色杯盤狼籍廊下  
入の惣盤小杯其茶室のう小茶碗を  
の束さそ居合ぬれは階差乃しく傍六  
輪切乳椀の皮乃り小杉箸の折之を  
月小震いそごんそくいふからまそ有  
糸くごん物目そ浴室れそ方乃ぞく



きき 上り後ら女護乃病を入ふ事  
すべし 小使不吐嘔吐は落丸のどくちり假  
室のたけの堂火を消すのり梯の下  
文のふくむ門は盛と盛雛妓を  
小翻了了髪のお髪横よ  
顔く脚一昨夜を西施に  
鼻のうと痘瘡首並は  
きかつたる毛のうと

お中身はあつたその中身も  
れ穢くく 谷のぬる人  
ハ神濟一乃全盛  
面屋の本偶夜光珠の  
先くせぬとがれり朝  
屋まで送るのり  
トてしんの中  
おのんの中  
あつたる毛のうと







かゝりつらねし七ねせおるそりたふありあんのよまほり  
あゝあたしとれよ之志ふねとくせんふまきくらすとら  
のし死人かり此子とちもなりなるりたれく  
つく客人ふゆりともくどむがれーまうこ  
ゆのぐごごりのゆれ夕夕まきろりろりろりねね寝  
どどに成りろくおきとらふかりるを席なろしりね入  
トよト更更ねねの夫入へ夫入へおれろりろりろり  
かきびまう新新らち大せんまきやく成はるまじんききこ  
客客志づるふしとくまきげぬんがヨるん後神の影影まぶる  
まきまきがらぐらとささきてんぐがけらとてん志志るん

しと人の志るここのやうに客客まきのが客が  
まきまきのしゆりしゆりのまきまきのしゆりしゆりのまきまきのしゆりしゆり  
くろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
むしむしのまきまきのしゆりしゆりのまきまきのしゆりしゆり  
らろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
くろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
ちまもたちまもたくろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
とくとくニろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
**玉時**  
くろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
小まのころりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
てろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
ままとろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり  
まま今ろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろりろり







中を秘人客人どううころらるるにやうん  
乃通<sup>そと</sup>り申と致由でいふしつちがあらる  
けふおざん次ト是よりひつりくする茶屋もいらく  
て君ののどろいのいもをいんふりけり乃秘を括  
の如う今おとさくといふもいふもくおんつるく居る  
西のち<sup>つ</sup>下よりとれくあるはを布子のよまれく  
思ふなりよひるるに板のたうまのふなをわを  
とるうをけうたる  
車井つみト<sup>ま</sup>う<sup>つ</sup>の<sup>げ</sup>車  
いしころ入来たをく吸付をのくや<sup>ま</sup>つ  
アイ<sup>ト</sup>か<sup>く</sup>つ<sup>る</sup>く<sup>吸</sup>付<sup>を</sup>あ<sup>て</sup>い<sup>の</sup>車<sup>子</sup>モ<sup>へ</sup>ら<sup>ば</sup>う

らしい火がき入る<sup>ト</sup>ま<sup>る</sup>で<sup>茶</sup>屋<sup>男</sup>モ<sup>こ</sup>  
おみ<sup>ん</sup>蛙<sup>の</sup>指<sup>が</sup>お<sup>と</sup>こ<sup>の</sup>吸<sup>付</sup>を<sup>の</sup>車<sup>子</sup>モ<sup>へ</sup>ら<sup>ば</sup>う  
中<sup>小</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>ん</sup>く<sup>い</sup>ろ<sup>の</sup>め<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>男<sup>ハイ</sup>  
ト<sup>ま</sup>る<sup>て</sup>車<sup>は</sup>ご<sup>ん</sup>の<sup>内</sup>  
且居る<sup>ら</sup>し<sup>や</sup>り<sup>男</sup>た<sup>指</sup>く<sup>ご</sup>ざ<sup>り</sup>ます  
ト<sup>ま</sup>る<sup>て</sup>茶<sup>屋</sup>女<sup>子</sup>モ<sup>こ</sup>お<sup>い</sup>ろ<sup>の</sup>め<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>出<sup>る</sup>  
し<sup>か</sup>ら<sup>し</sup>れ<sup>ま</sup>し<sup>車</sup>々<sup>い</sup>ろ<sup>の</sup>め<sup>く</sup>せ<sup>ん</sup>女















何れを後ふと去りかく公早入余の御つて

そ終りくアは海わくそれをまきりくーかん

一人者のやねんぬりそゆらぬりらぬ

あひひやとてしうアひりぐへらて

何んぬらとくまやアくーやヨらららぬわを

まろ福人ヨおつらんがわんまを親ぬら

まろーやううーえんぬらららくたなるのいどや

ア秘人つひひまてゆゆの湯へゆくとたほあめ

たきり○そのあとし小まの屋あはへんぐーとこ

かそーあぬらとふかけくありざーたそのをたて

こんど操ひらやーいざんぞ甲まがやや

まきとまきなと終り楽んトタタタタ

ホレニあつとアアよ死ぬほほどりーつが今

いらんとお終まぐそまけんせんううあーと

うねとふあううおそお出形ん一アア

た操たかうのーうあ中一あうまじばらあ

のうそあうはーかうおあさんのまふら



































ゆつゝとちんちんヨトヨトとて

しつゝとちんちんヨトヨトとて

あまのうけりゆいとて

ひまをくトニウとて

佳氣多ウキタとて

アヤアヤとて

久クとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて

おおとて



















てきまらふせんトイハルコウノ林ハシラシトケル カ  
次造ヤアアイク カ カ カ

てのその二条と百のたんと箱紙で

んぐあ引でいんくわんてきや又

ち神樂をとりあよこの二条の

ふ世帯からう神樂 カ カ カ

だもさうウだらう人ねんてこ一えん

かこカ カ カ カ

かの内のまゆびうらりてさぐれ

けりカ カ カ カ

がカ カ カ カ

戸尻のカ カ カ カ

モカ カ カ カ

さカ カ カ カ

かカ カ カ カ

さカ カ カ カ







くさぐさぐさおさんさかんあんしておらん  
まんしんトビおんトビよりおのトビいそるトビ死トビ伴トビ悪トビ懲トビ乳

くさぐさおのトビこのあまトビ稀く世の中トビ此女  
郎トビ買トビ金のトビ沢トビ山トビあトビおトビうトビちトビのトビ女トビ所トビ此トビ美トビ

実トビへあトビうトビちトビおトビうトビちトビいトビおトビあトビうトビちトビいトビおトビあトビうトビちトビいトビ  
見トビはトビぬトビぐトビらトビまトビるトビがトビまトビさトビしトビてトビおトビんトビ公トビてトビおトビとトビおトビんトビ

申トビのトビハトビツトビ時トビ

カトビキトビヤトビシトビシトビシトビセトビキトビキトビ中トビあトビまトビ流トビの  
なトビてトビけトビしトビのトビまトビさトビぐトビまトビ流トビひトビこトビろトビまトビはトビいトビ

つトビらトビふトビるトビらトビ○トビおトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
送トビ四トビ十トビ三トビちトビるトビとトビ三トビやトビ之トビがトビおトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
夕トビその

公トビのトビちトビあトビひトビもトビとトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
人トビ月トビがトビあトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ

とトビがトビあトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
死トビとトビくトビらトビまトビりトビをトビ隣トビ トビあトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
三トビ條トビ院トビとトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ

あトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
後トビ半トビ月トビのトビ子トビ トビラトビツトビトトビとトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ

式トビ初トビあトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ  
人トビ世トビ世トビをトビ介トビらトビうトビちトビいトビはトビまトビりトビらトビうトビまトビりトビがトビ次トビのトビちトビあトビひトビ















けりては決のりき名物のうらふらふと  
 やアく夕霧どのの心をえと  
 と一服目の大星のどねふ  
 夢とけふをいわけ  
 ねつと物さる一人の男  
 若ぬりのきこころでつん  
 で秘りり上テ今一人とぶらり〜おまうおめて  
 と〜た〜し〜こら〜もけつあら〜も〜れ



けりては〜と〜り〜し〜ほ〜して〜ぞ〜さ〜ら〜い〜こ〜ら  
 よ〜く〜そ〜こ〜え〜ふ〜た〜れ  
 こ〜ろ〜より〜も〜や〜ア〜つ〜あ〜  
 さ〜ん〜は〜浮〜里〜さん〜のお〜  
 客〜人〜い〜ろ〜ろ〜ぶ〜ど〜  
 し〜て〜ア〜を〜伴〜ゆ〜  
 つ〜め〜と〜か〜ま〜ら〜ど〜け  
 男〜侍〜た〜ろ〜が〜ま〜ふ〜も〜は〜け〜ん〜の〜ま〜














せきふみ おろし 中のる乃  七ツ時前  
路日将斜余

是中錦おの表おとへんよ夜けの景  
色乃きそれやふ今までまくあるこ  
未まりの小冊さであらうトあ

後叙 

夫それ熟あ大門め視みバ。實げリ

兎う貫くが旬じゆん乃の如ごとく。骸がい骨こつ

此こらうへん我われ物ものようもも。送くわ送くわ此こ

郭かくの喜き怒ど哀あ樂らく迷ま迷ま不ふ



<p>眼<small>けん</small>中<small>ちゆう</small>西<small>せい</small>施<small>し</small>と出<small>しゅつ</small>し。</p>	<p>悟<small>ご</small>を鼻<small>び</small>中<small>ちゆう</small>一<small>いつ</small>鼻<small>び</small>氣<small>き</small>成<small>せい</small></p>	<p>んぐん<small>ん</small>及<small>お</small>速<small>すみ</small>了<small>りょう</small>る悟<small>ご</small>深<small>しん</small>も。</p>	<p>有<small>う</small>漏<small>ろう</small>路<small>ぢ</small>より。無<small>む</small>漏<small>ろう</small>路<small>ぢ</small></p>	<p>へ送<small>そう</small>る。茶<small>ちや</small>屋<small>や</small>の提<small>てい</small>燈<small>とう</small>。</p>	<p>人<small>じん</small>間<small>かん</small>より川<small>がわ</small>うナワレ五十</p>	<p>間<small>かん</small>道<small>どう</small>一<small>いつ</small>切<small>せつ</small>乃<small>の</small>念<small>ねん</small>生<small>じやう</small>才<small>さい</small></p>	<p>乃<small>の</small>由<small>ゆう</small>心<small>しん</small>さりしやい</p>	<p>ましや。</p>
---	---	--	--	---	---	---	---	-------------



晉寬政三年辛亥

春正月

京傳自跋



*[Faint handwritten notes or bleed-through from the reverse side]*



